

授業科目 身体障害作業療法学演習Ⅰ

【担当教員名】 貝淵 正人、今西 里佳	対象学年	3	対象学科	作業
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：GIO】
脳血管障害や頭部外傷等の脳障害および脊髄障害に対して作業療法を実施するために、その病態を理解した上で、作業療法の目的や評価技法、治療・指導方法を習得し、さらに演習によって技術を身につける

- 【学習目標・行動目標：SBO】
1. 脳障害や脊髄障害の病態に関心を持ち、真摯かつ積極的な態度で学ぶことができる
 2. 脳障害に対する作業療法の目的・評価・治療技術を説明することができる
 3. 脳障害に対する作業療法の実際を説明することができる
 4. 脳障害に対する作業療法の目標・治療内容について考えを述べるすることができる
 5. 脊髄障害に対する作業療法の目的・評価・治療技術を説明することができる
 6. 脊髄障害に対する作業療法の実際を説明することができる
 7. 脊髄障害に対する作業療法の目標・治療内容について考えを述べるすることができる

回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳障害患者の作業療法の視点	1～4	講義・演習、担当：貝淵 正人 他
2	脳障害患者の作業療法の関わり	1～4	講義・演習、担当：貝淵 正人 他
3	脳障害患者のADLの診方	1～4	講義・演習、担当：貝淵 正人 他
4	脳障害患者のADLの介入	1～4	講義・演習、担当：貝淵 正人 他
5	脳障害患者の利き手交換に対する介入	1～4	講義・演習
6	摂食・嚥下障害の病態と評価	1～4	講義・演習
7	摂食・嚥下障害への介入	1～4	講義・演習
8	嚥下障害への介入（吸引の基礎知識）	1～4	講義・演習
9	嚥下障害への介入（吸引実技）	1～4	講義・演習
10	脊髄損傷の病態、評価、介入（合併症管理・排泄管理）	1,5～7	講義・演習
11	脊髄損傷の病態、評価、介入（ADL・IADL）	1,5～7	講義・演習
12	脊髄損傷の病態、評価、介入（ADL・IADL）	1,5～7	講義・演習
13	脊髄損傷の病態、評価、介入（動作訓練および装具等）	1,5～7	講義・演習
14	脊髄損傷の病態、評価、介入（環境調整・社会復帰）	1,5～7	講義・演習
15	まとめ	1～7	講義・演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	福祉用具・住環境整備の作業療法	玉垣努編	中央法規	2013・3,800円＋税
	参考書	身体機能作業療法学 第2版	岩崎テル子編	医学書院 2011・4,935円
その他の資料	配布資料			

【評価方法】 出席、レポート提出期日厳守や演習に意欲的に真面目に取り組む授業態度を重んじる。 成績は、8割が定期試験結果で、2割が出席日数や授業態度、レポート提出等で総合的に判断する。	【履修上の留意点】 外部講師による演習がある。
--	----------------------------